事後課題の所感

三ケ月に渡る御研鑽の御提出頂きました課題諸般に渡る御指導と御努力に感激致しました。その中を一応分類といつた形を取りますと

実修所の体験　原隊年間プロ　班制　指導目標と指導技術　育成会と指導者　宗教と倫理　訓育の展開等に一応落ちつきると考へます。これ等をとりまとめ私の所感としてお送り致します。

スカウティングと人間形成に関する点について

然意ある所信に全く同感であります。私達スカウティングの道を歩むものゝ共通の願とは何んでしようか。恐らくB_P最後のメッセ_ジと申せましよう。更に言葉を加えれば、生活條件である衣食住　娯楽　趣味、その上の心のやすらぎでございましよう。

然し現実は一体どうなのでしようか。スカウティングにあつては人間形成の基本を＜自分が自分に呼びかける＞その事を基盤としてスカウティングという方法で訓育する　自分を自分で引受けられる訓育と申せましよう。その意味で指導者自身も同じと申せます。

ちがい　おきて　に罰則規定や懲戒規定のないことは本来性に帰る人の歩む道の方向付であるからといへます。

よく真理であるという言葉を聞きますが　そのことは学問的な知識に対する言葉であつて、スカウティングの場合　身体を通して味い知る智慧でなければならない　その意味で、＜真実＞でなければならないのではないでしようか。

さクしを観点からスカウティングの人間尊重とは　決してあまやかされることではなくて　スカウトとしての内面からの自己への厳しさ、その表現が規律という形で出てくるものであらうと思ひます。

指導者自体の生活と奉仕活動

仰せの通り、満された生活の中での奉仕　反対の立場の人　夫々の環境に左右されながらも、自分で生活を築きあげる、自由の主体であり、選擇、決断、決意の自由を持つています。

自分の道の取り方でよほど変つてくるものです。只近代生活の特徴は表面は自由の様で、真の意味での自由はなく私達の内面の生活も、社会も波立つている場合　内面的覚醒ほど大切なものはありません言葉をかへれば　自分の想いのまゝに解釈された見方でなくて……

私達がよく誤りを犯すことに指導というその言葉を常識的に解釈してしまいますし　自分の体験を通し　自分のペ_スに引込んで、思クよクに指導して満足している人があるようですが　そのことは或る意味で　自分のペ_スで善悪をあげつらうクよクな　外部からの物指しで、若い少年を押し計るようなもので　決果的には　身振文をつくらせ人間として生きる感覚を失はさせるのと同じようクに　私達スカウティングを歩む指導者としてその私自身の生活の事実を感覚しているそのことを自覚すること以外　私の道はないのではないのでしよう　同じスカウティングの道といへ20人よれば20人夫々の道がある筈です。スカウトの感覚訓練といつても　究極はこゝにくるのではないでしようか。(大阪連盟のはんなん地区共同紙を読んで)もしスカウティングが外面的価値にいどむものであるならば　自主性というものが発揮出来るでしようか?

課題2の中で

特に気付ました点を書き添へます。

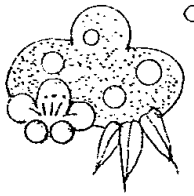
少年達には、やはり人間としての基本的欲求　本能からくる欲求があります。スカウティングの初歩的段階に於て大切なことは、その欲求を満足しつゝ精神面を引出して行くことから初まります。班、隊を通して価値あるものとして高められて行くその過程を豊にし、その実践の中で、明にして行くためのプログラムですから　スカウティングの目的と結びつく見通し…が私達指導者として心懸けねばならないのでしよう

従って単に進級の為の練習、観念的な反省では、いつしかづれが出て来ます　少年1人1人夫々のもちまえがありますからそれに答えるのが指導内容で　目標は、班、隊を通してのきまり(規活動)と自治を体験して生れ出る規律であるといえる。

浄いもの、旺盛なもの　等を求める人として又社会の関連に於ても理想像を画く私達であります。
自然の中に　少年の愛着をそそる自然とその中に生る人、その能力　或はその行為は　少年の欲求と共通点を持つております
　私達はそれを通して　少年の心を満足させ　信念を持たす事が出来ます　度重なる経験は　文化生活に帰つて、他の人以上に生活を楽しむ事が出来る様になるのです。
言葉をかへれば　禅僧の　趣味　喫飯　喫茶　行深等　歩々即光明の行の哲学であり　西行　芭蕉　或は巡礼者の様な　自己発見への旅であり、それへの訓練過程であるといへます
スカウトのキャンプは人類進化の理法とでも申しますか　合致せしめるところに価値があるといへませう。
　従つて　最新流行の用具を集め、天幕内で暮すのがキャンプではありませんし　すつかり　お膳立の出来た野営地に行つて参加者の一人として暮すのなら誰でも出来ます。
多くの人はキャンプを道楽として通し、働く事を好きになる様に教へられて居ない　私達スカウトは　凡ての少年に　自ら進んで　自分を楽しく伸ばせ　知識や技術を得る為にどのの様に努力するか　その方法を教へ　深く考へ　コツコツ働く少年にしかし　自分勝手な少年にすることではありません
　従つてスカウトのキャンプは一切の準備、計画、視察　或は予算等から初まります。服装や携帯品を揃へ　かり致しますが　スカウトキャンプの日々の一部分に過ぎないのです。勿論一定の限界は必然的に生れて来ます
その限界内で、最も能率的な身仕度荷物造等自身研究して行ひますが、それ以上に全員でプログラムを考へ肉体的、精神的準備を重要視致します　準備、キャンプへの準備はスカウトキャンプ教育の大きな目標の一つであります。誰も彼も　楽しく、機嫌よく、面白く　然も忙しくプログラムは組まれねばなりません
この準備は　御承知の通り、特に班次長には大変苦労なもので、そのもの、作業に、指導者は時間を取られますが　その間　間断ない教育の材料が得られ、この準備と平素の訓練が完全であればある程　弾力性ある楽しく価値あるキャンプが実施出来るのです。
能力、経験、準備の不足は　何等かの形で打撃を受けるものです。
キャンプは、皆になすべき仕事があり、共味と勤強は手近にあり、肉体的にも、精神的にも強健にします。班の生活は、個人的連帯を必要と致します　社会生活の技術や　誠実を発展させます
天幕を張り　溝堀り、食器洗ひ　便所　塵捨場　そしてテーブル　椅　物干場　遂に致るまで作ります　寝床　洗面所　雨天の用意等作業は一杯です
それ等はすべて知らぬ間に実施されます。これは勿論諸種の教育目的の下に行はれます　即創造活動への示唆暗示を含めて行はれるので、叱責や、あらさがしの為に行はれるのではありません　朝の点検は　父親の心で、夜は母親の心で行はれ　健康位生、安全等にも充分意を払うのです
　このように意味で本年度のキャンプはスカウトキャンプらしく実施する様進めて居りますので諸般の計画はすべてスカウトの手で進める様指導致しましたので実施要項等御手許に届けますのが大変遅れましたが如上の次第で、御了承下さい。

注意

- 間食類は必要に応じ隊で支給致しますので持たせない
- 小使銭は全参加費の$\frac{1}{3}$以下であること（程んど使用する時がありません）
- 昼食は弁当持参
  水筒は忘れずに
- 頭髪　爪足の爪は手入しておくこと。
- 参加承諾書には記入外の事で御気付の事は精しく
  例〃非常に汗ひきである〃
- 水泳、野営地を離れる者の場合　指導者の指導以外の行動を取らぬ様御注意置下さい。
- 少しでも気分の悪い時は、自分勝手な判断をせず指導者に申出て下さい。
- ジャケツと雨具は忘れず持たせて下さい。
- 便秘は　必ず点検の時　それ以外の時でも自ら申出るやう伝へて下さい。
- トランプ　カルタ類の持参は厳禁します



C.S.L. B.S.L 資

"もちつき"の…ことから…

新春になれば"賀状"正月に入れば 佛閣 神社 恵方 参りが盛んである。
新年の"新玉を寿ぎ"といい…案外 何がなんだかわからずに縁起をかつぐ そのことに終ってしまっている。 特に関西でも京都ではそれが多いようだ。
正月の門松を立て祝う その事には略し 亡き人がもう一度家に帰ってくる"ミタマ"迎へのしるしで 新玉とは"魂"で祖先を祭る 迎へまつるまつりであつた。晦日を大つもごりと今も言つているが つもごりとは籠もりのなまりで 一夜祖先のミタマを迎へ 寝ずにこもりする夜だつたのである。
紫式部も 大晦日に「亡き人の来る夜と聞けど 君もなし、我が住む宿や魂なしの里」 又清少納言も枕の草紙に「年の暮には亡き人のお供えにゆずり葉を敷き、正月にはお祝の餅をのせこの餅を喰りと歯固め(歯を丈夫にして命がのびる)云云とある。 正月の雑煮はこのお供えの下げたもので受けたものである。
すべて縁起的説明は聞くが 若い人には初耳ではあるまいか。
正月の明るい気持、新年の新らしい門出は何としてもよい、まことに結構なことである。除夜の鐘の音の終ると、竈の木も若木となり、やがて昇る大陽も 初日の出となる。 若水で過去の誤りを洗い、初日に照らされて、明るく門出する。そのために仏壇に合掌し、新春の言葉を交しての新春を迎へることは、その飾りをするだけでなくその根元へ帰ることとその基盤の上に立つての門出であることを意味するのであらう。
自然界の生命は只不思議と言う外はない 人間にとつての自然とは その内なる生命でしよう。
今、我が生きているというそのことは、無数の生命が受け継がれた上にある 即ち父母、祖父母、とさかのぼれば人数の祖先まで……

神秘と畏敬

更に、人間の生命の背後に、何億年の生物の歴史がある……
その無限の歴史の中から 生み出された私、生命であることに思いをいたすと そこに神秘と畏敬の念を覚えずにはおられない。その思いは自ずと合掌の世界であり、そのことは即、私の当体への合掌であると共に私の生かされて居る確認であり 私の新しい門出の根據地であることを意味します。

- 無限の過去を背負い
- 無限の將来をはらむ

私

そして私の最終の根據地は 墓であると申せましよう。その意味で墓に参るとは 亡き人に対すると共に、私自身の当体に参ることであり、無限の歴史の中に育まれる私の自覚は、無限の過去を背負うと共に 無限の將来をはらんでいる自覚でありましよう。根源に帰るとは そのまゝ次代への思い願として生命の通りものとなるでしよう。

倶会一處

自然の中に静に息づく祖先の墓に参るのは 人情の自然である。というより、無意識本能に近い。墓前の雑草を引いて 美くしい花を捧げるとは 倶に一處に会することであり、単なる祖先崇拝とか 道徳の世界のみで終るのなら 衆員無為……光雲無碍如虚空の真の広々とした心 自由の世界には出られない
単なる墓参りは、意欲の満足ではなくあるとすれば 金持になる願のなおるという現世の利益主義のもてあそびと言つていいのです
意欲の満足は心のみではない。それだけならば観念に終る。人間とは身体と心の統一したものです。
原始的な人間形成の場は家族生活にある。昔の家族制度ならいざしらず家は亡びたというが 戸籍上の家は亡びても、家族の血は永永永遠に絶えず昔の姓名を重じた時代は去り、個人の幸福追求となつたとは言へ 真の幸福は得られない。

人間形成の場は 学校よりも、社会よりも、家族生活にある。
祖先以来の世代を生きて来た宿業を凝視し、我が歩みとしたい。

鐘鼓から……にらんで